

HLC 東大阪リエゾン倶楽部 1 周年記念定例会

平成 21 年 3 月 23 日
東大阪クリエーションコア
南館 2F 会議室
17:30～19:15

次第

(17:30)

1. 清水代表世話人 ご挨拶

今回で 1 周年を迎えますが、会を重ねる毎に参加者が増えてきました。
この間、産学連携の案件も 1 件現在進行中ではありますが、もっと多くの共同開発を期待しています。
同志社大学並びに HLC が、より有名になるように伸ばしていきたい。

(17:35)

2. 辻内同志社大学(教授)リエゾン所長 「同志社大学リエゾン 産学連携の方向について」

- ・2002 年に産官学連携体制をスタート、2003 年に知的財産センターが発足。現在、今出川、京田辺、東京、学研都市、東大阪等にオフィスを置き活動拠点としている。
- ・ニューズレター「LIAISON」を年 4 回発行し、広報を行っている。
- ・「知的クラスター創成事業」「D-egg」「薄型 3 軸力覚センサー」他、多くの開発取組。
- ・現在、大学の社会的責任(USR)を果たしていくために、産官学連携活動を全学的活動に拡大して展開中。

(18:00)

3. 講演 「知的オフィス環境の実現と中小企業の役割」

同志社大学理工学部インテリジェント情報工学科 三木教授

講演要旨

- ・同志社大学に情報工学科設立と同時に赴任して、超高速コンピューターの研究に従事し、世界で 93 位にあたる速度を有する並列コンピューターを開発し、その意義を説明。
- ・次にシステムの知的化の研究に従事。
現在の自動車は知的化の極致であるが、まだまだ知的化されていないものも多く、中小企業が出来分野が多く残っていると考えている。(例えば、知的ポット、知的醤油、知的インターフォン等)
- ・現在は、オフィス環境の知的化に取り組んでいる。
オフィス環境は従来からの情性的な環境に満足しており、メーカーも新しい取組に否定的である。しかし、オフィスワークで高度な創造性が要求されるに従ってオフィス環境(照明、音、空気、臭い等)の影響は大きくなってきている。即ち、人間は自分の好みの環境を選択することが出来、自分で自由に環境を制御できれば必然的に創造性のある仕事をしようとするものであり、自然とその仕事に責任をもつようになると考えられる。又、その逆の環境を与えられるといい加減なところで妥協し、創造性のある仕事は難しくなる。従って、創造性を発揮できるオフィス環境は個人の好みに合った環境を自由に設定できることが大きな要件となり、我々は、現在そこに開発の狙いを置いて取り組んでいる。
- ・この分野での課題には大企業が比較的消極的な分野が大変多く残っており、東大阪の中小企業の活力ある取組に期待を表明。

(19:15 終了)

(19:30) 懇親会 同志社大学マンドリンクラブ演奏を交えて開催。(於:カフェパール)

以上、定例会参加者 42 名